

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金に助けられた私たちの暮らし』

町田市立成瀬台中学校 3学年 中江 悠

「税金」はいつたい何に使われているのだろうか？

私はアレルギー疾患や側弯症の治療のため、定期的に病院に通っています。その際、毎回、治療費を何千円も支払っているわけではありませんでした。なぜなら、健康保険証と町田市から交付されている医療証によって、病院窓口での支払いは二百円、薬局での支払いは無しになっているからです。これは「社会保障」といつて、納められた税金で、その費用が賄われていることを家族に教えてもらいました。「社会保障」がなかったならば、私のような持病があり、定期的に通院をしている人にとって、医療費は多くの出費になってしまいますが、この社会保障制度によって、医療費は全額ではなく少額で済むようになっていきます。このような背景から、私は、医療費をどれだけ税金で負担しているのか、調べることにしました。

国の支出である一般会計歳出のうち、社会保障の支出は最も多く、三十三%を占めていることがわかりました。社会保障には、医療だけでなく、年金、介護、福祉なども含まれることを知りました。つまり、私たちが健康で当たり前の生活をおくるだけでも多くの税金が必要であることがわかります。今回、調べた中で、日本と海外の

社会保障の違いが大きく異なることも知り、特に驚いたのは「救急車」の費用でした。

日本では、社会保障制度のおかげで、どこで救急車を呼んでも無料で駆けつけてくれ、病院へ運んでくれますが、海外で救急車を利用すると、高額な費用が発生します。つまり、国によって、国民の医療費を支える税金の額が異なることを知りました。どのくらいの違いがあるのか、アメリカと日本を比較した例を見つけました。

「自由主義」が基本であるアメリカでは、国民が病院で診察を受けることも、その人の自由なため、救急車の利用費も治療費も社会保障がなく、救急車を利用する場合、最低でも六万円はかかるそうです。アメリカで盲腸の治療を行った場合、日本の約十倍以上、費用がかかると言われています。これほどの違いがあったことを知り私はとても驚くと共に、日本の社会保障制度の重要性、つまり、税金の大切さを知りました。

今まで私が当たり前のように通院できていたのは、税金による社会保障のおかげであることを知り、また、税金は生活に必要なさまざまなことに利用されていることを確認することができました。私たち国民や企業が納める税金が少なくなると、当たり前のように感じている、これまで通りの生活ができなくなり、街の美化や治安が悪化するかもしれません。税金は私たちの生活の質に直結したお金であると認識し、きちんと納税していくことが大切だと思いました。